

1 単元名 新しい文化と学問

2 本単元の目標

江戸時代に生まれた新しい文化と学問について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することを通して、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解するとともに、学習成果を基に生活の在り方やこれからの国家及び社会の発展について考えようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、江戸時代の文化と学問に関する主な事象を理解している。 ②調べたことを表や文などにまとめ、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、江戸時代の文化と学問の特色について考え表現している。 ②武士、町人、農民の立場から江戸時代の文化や学問との関係を調べ、これらの事象を関連付けて考えたことを適切に表現している。 ③武士、町人、農民から捉えた事象と、文化と学問から捉えた事象を総合して江戸時代の特色を考え、適切に表現している。	①江戸時代の文化と学問の特色について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編第6学年の内容(2)ア(ク)「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること」を受けて設定している。江戸幕府が政治を行った頃の学習で、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学の二つの事象を取り上げ、これらのことを手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解できるようにすることをねらいとしている。その際、歌舞伎や浮世絵はどのような人々に親しまれていたか、国学や蘭学はどのような学問だったのか、どのようにして作り上げられたのかなどの問いを設けて、歌舞伎や浮世絵が町人の間に広がったことや国学や蘭学がおこったことを調べ、これらの事象を関連付けたり総合したりして、この頃に栄えた町人の文化や新しい学問の特色を考え、文章で記述したり説明したりできるようにする必要がある。

(2) 児童観

本学級の児童を対象とした、「室町文化と力をつける人々」の学習後に行った実態調査（令和7年*月*日実施、第6学年*組）において、複数の立場から捉えた事実を関連付けて考え、具体的知識を捉えることができた児童は*人であった。また、複数の立場から捉えた具体的知識を総合して

考え、概念的知識を捉えることができた児童は*人であった。この結果から、本学級の児童は、社会的事象の特色を考える際に、複数の立場を踏まえて考える力が不足していることが分かった。これまでの実践では、資料から分かる事実を記述して社会的事象の特色についてまとめる活動は行ってきたが、複数の立場から事実を捉える視点や複数の立場から捉えた事実を関連付けたり総合したりして考える活動が不十分であったため、社会的事象の特色を多角的に考える力が育っていなかった。複数の立場から捉えた事実を関連付けたり総合したりして考える活動を通して、社会的事象の特色を多角的に考える力を育てることが必要であると考え。

(3) 指導観

児童が、複数の立場から捉えた事実を関連付けたり総合したりして考える学習活動を通して、社会的事象の特色を多角的に考える力を育てていく。そのために、三つの活動を実践し、文化と学問まとめシートに整理していく。まず、複数の立場から事実を調べる活動では、武士、町人、農民の立場から文化と学問について調べ、分かったことをシートに整理し、事実を捉える。次に、複数の立場から捉えた事実を関連付けて考える活動では、武士、町人、農民の立場から事実を比べて気付いたことを話し合い、共通点や傾向をつなげてシートに整理し、具体的知識を捉える。最後に、複数の立場から捉えた具体的知識を総合して考える活動では、具体的知識を比べて気付いたことを話し合い、具体的知識を総合して、文化と学問の特徴やよさをシートに整理し、概念的知識を捉える。これらの学習活動を通して、社会的事象の特色を多角的に考える力を育てたい。

5 単元の指導計画（6時間扱い）

○は指導に活かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1 つかむ	1	- 室町時代の文化の特色を確認する。 - 江戸時代と室町時代の様子を比較する。 - 本時の学習問題を確認する。 江戸時代の文化と学問についての学習問題を作ろう。 - 江戸時代の文化と学問について知っていることを出し合う。 - 疑問や調べてみたいことと、その予想を立てる。 - 本単元の学習問題を設定する。 文化と学問の特ちょうから、江戸時代はどのような世の中だったと言えるだろう。 - 江戸時代の文化と学問に関する用語を確認する。				- 室町時代と江戸時代の都市の様子を比較し、江戸時代の都市がにぎわっていることに気付けるようにする。 - 武士、町人、農民が生活していたことを確認する。 - 児童の追究意欲が高まるように、どのような学習問題で進めていくか、児童の発言を基にして設定する。 ○ 態①：江戸時代の文化と学問の特色について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしているかを見取り、身につけていない児童には読み取りやすい資料を提示する。 【観察、シート】 思①：世の中の様子や人物の働きなどに着目して問いを見いだしているかを見取り、できていない児童には「なぜ、どのように」など、資料を見る際の視点を確認する。 【シート】
2 調べる	2	- 本時の学習問題を確認する。 江戸時代の文化には、どのような特ちょうがあったのだろう。 - 武士、町人、農民の立場から、自分が興味のある江戸時代の文化について調べる。	◎			- 武士、町人、農民の立場から文化について調べられるように資料を提示する。 - 児童が自分の調べたい文化を選んで学習を進めていくことで、追究意欲を高められるようにする。 知①：資料から必要な情報を集め、読み取り、江戸時代の文化に関する主な事

	- 分かったことをシートに記述する。 - 武士、町人、農民の立場から捉えた事実を関連付けて考え、事象ごとの特徴をシートに記述する。 - 本時のまとめをする。 新しい文化が生まれ、町人を中心に、武士や農民にも広がった。 - 本時の振り返りをする。		◎	象を理解している。 【シート】 - 関連付けて考える際には武士、町人、農民の立場から捉えたことをつなげて見えてくることを考え、どの立場の人々が中心となっていたか、どんな文化が生まれたか、どの立場の人々に広がったかに着目するとよいことを伝える。 - 江戸時代の文化についてまとめる際のポイントを提示する。 思②：複数の立場から捉えた事実を関連付けて江戸時代の文化の特色を考え、適切に表現している。 【シート】
3	- 本時の学習問題を確認する。 江戸時代の学問には、どのような特ちょうがあったのだろう。 - 武士、町人、農民の立場から、自分が興味のある江戸時代の学問について調べる。 - 分かったことをシートに記述する。 - 武士、町人、農民の立場から捉えた事実を関連付けて考え、事象ごとの特徴をシートに記述する。 - 本時のまとめをする。 新しい学問が生まれ、武士を中心に、町人や農民にも広がった。 - 本時の振り返りをする。	◎	◎	- 武士、町人、農民の立場から学問について調べられるように資料を提示する。 - 児童が自分の調べたい学問を選んで学習を進めていくことで、追究意欲を高められるようにする。 知①：資料から必要な情報を集め、読み取り、江戸時代の学問に関する主な事象を理解している。 【シート】 - 関連付けて考える際には武士、町人、農民の立場から捉えたことをつなげて見えてくることを考え、どんな学問が生まれたか、どの立場の人々に広がったかに着目するとよいことを伝える。 - 江戸時代の学問についてまとめる際のポイントを提示する。 思②：複数の立場から捉えた事実を関連付けて江戸時代の学問の特色を考え、適切に表現している。 【シート】
4	- 本時の学習問題を確認する。 武士、町人、農民は文化・学問とどのように関わっていたのだろう。 - 文化と学問から捉えた事実を関連付けて考え、武士、町人、農民それぞれの様子をシートに記述する。 - 武士、町人、農民と文化・学問との関わりを、室町時代と比較して考える。 - 本時のまとめをする。 武士、町人、農民は新しい文化を楽しみ、新しい学問を学んでいたことから、平和で安定した生活ができるようになった。 - 本時の振り返りをする。	◎	◎	- 関連付けて考える際には武士、町人、農民は文化・学問とどのように関わっていたか、共通点を見付けるように声掛けする。 - 室町時代と比較して考えることで、平和が続いたことや、生活が安定したことを理解できるようにする。 - 江戸時代の様子についてまとめる際のポイントを提示する。 知②：調べたことをシートにまとめ、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。 【シート】 思②：複数の立場から捉えた事実を関連付けて文化・学問とどのように関わっていたのかを考え、適切に表現している。 【シート】

3 ま と め る	5 本 時	1 本時の学習問題を確認する。 文化と学問の特ちょうから、江戸時代はどのような世の中だったと言えるだろう。 2 これまで学習してきた「文化の特徴」「学問の特徴」「生活の特徴」を確認する。 3 シートに記述したことを総合して、江戸時代の文化と学問の特徴を考える。 4 学習問題の答えを考える。 新しい文化が生まれ、町人を中心に武士や農民にも広がり、新しい学問が生まれ、武士を中心に町人や農民にも広がったことから、江戸時代は平和で安定した世の中だった。 5 本時の振り返りをする。			- 文化は町人が中心となり武士や農民に広がったこと、学問は武士や町人、一部の農民の間に広がったこと、武士、町人、農民は平和で安定した生活をしていたことを確認する。 - 総合して考える際には、シートに記述した「武士、町人、農民の立場から関連付けた文化と学問」と「文化と学問から関連付けた武士、町人、農民の生活の様子」の同じ所や似ている所を見付けて、どのような特徴があると言えるかを考えるように声掛けする。 - 学習問題の答えを書く際のポイントを提示する。 - 学習問題の答えを書くのに戸惑っている児童には、ヒントカードを渡し、まとめ方のポイントが分かるようにする。 ◎ 態①：江戸時代の文化と学問の特色について、学習を振り返ったり見直したりして学習問題を追究し、解決しようとしている。 【観察、シート】 ◎ 思③：複数の立場から捉えた事象を総合して江戸時代の特色を考え、適切に表現している。 【シート】
4 生 か す	6	- 本時の学習問題を確認する。 江戸時代の文化と学問には、現在とどのようなつながりがあるのだろうか。 - 江戸時代の文化・学問と、現在のつながりを考える。 - 江戸時代に生まれた文化と学問が、なぜ現在まで続いているのか、理由を考える。 - 本時のまとめをする。 江戸時代の文化と学問には、伝統文化として守られ、現在につながるものが多い。 - 学習の振り返りをする。			- シートを基に、江戸時代の文化・学問と現在の生活とのつながりを考えるよう声掛けする。 - 江戸時代の文化と学問の多くが、現在の生活にもつながっていることを確認する。 - 江戸時代の文化と学問が現在まで続いている理由を考えることで、日本の歴史が長く続いてきたこと、これから先にもつなげていくことの大切さに気付けるようにする。 ◎ 態②：よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。 【観察、シート】

江戸時代の文化と学問まとめシート

学習問題						
------	--	--	--	--	--	--

用語 語句 立場	江戸時代						文化と学問からとらえた ことをつなげて見えてく ることは？
	文化			学問			
武士							
町人							
農民							
武士、町人、 農民からとら えたことをつ なげて見えて くることは？							

文化の特徴			学問の特徴		

学習問題 の答え	
-------------	--